

特別展 「立山家の人々」は

今年3月12日（日）まで！

今年度は、毛馬内の立山家の人々を取上げ、特別展を行っております。

享保年間に宗家から分家した立山家は、いつの頃からか紺屋を家業にしていました。今でも染め物の型紙や型板が大切に保存されています。今回は、その貴重な資料もお借りしています。

また、その型紙を使って京都の染め屋に依頼し作成したという藍染の着物も展示しています。あわせた袋帯は三眠蚕の極細の糸に生糸を織り交ぜ、サラサラとした心地よい肌ざわりで、見た目にもそれが伝わってきます。青を基調とし、唐草華文を柔らかな線で表現しています。普段見ることのない逸品をぜひお見逃しなく！

そのほか立山家は、立山文庫を創設した弟四郎、天才数学者と言われた林平、初めて郷土の植物方言を研究した廉吉などを輩出しました。

先人たちの功績をぜひ、ご覧ください。



先日、駐

車場付近

で、タヌキを

見かけたよ。



寒かったのが、怯えていたのかブルブル震えていた。迷子かな。無事に巣に戻ったかな。また姿見れるかな。先人顕彰館は、そんな自然豊かなところにあるよ。

◇ミニ絵本◇

子どもから大人まで、もちろん親子な



ど沢山の人で楽しめるよう解説をつけています。鹿角と縁のある先人たちの功績を知ることができます。現在シリーズ28まで完成しています。シリーズを揃えたい方は是非、顕彰館までお越しくださいませ。

